

# 「災害遺構」の収集及び活用に関する検討委員会(第3回)議事要旨

開催日時・場所 平成27年12月18日(金) 12:30~14:30  
中央合同庁舎8号館 4階407-2会議室

## 1. 開会(事務局)(資料1・2)

事務局より資料説明の後、以下について議論された

## 2. 災害遺構等の総称に関する議論

- ・災害遺産は、埋没してしまう可能性もあり、認定されるものというイメージが強い。
- ・たくさんあるものを拾い上げることを意識したネーミングがよい。「災害歴史教材」「歴史災害教材」というのも考えられる。
- ・「災害文化遺構」という方が広がりを感じる。活用することが目的であるので、その意味が伝わる言葉が良い。これを契機に定着しうる方向性を出せたら良い。
- ・若い人も含めて、気づきのきっかけにしたい。概念だけを示して、活用する中で愛称を使うという方法もある。

## 3. ウェブサイトによる取組促進策に関する議論

- ・地域の区分、特に地域ブロックの区分は適切なのか検討の余地がある。特に近畿～甲信越は地域の事情によって区分が違うので、注意が必要。
- ・古文書などは、どこにあるのかよりも書かれている内容を教材として使うので、記載内容が重要である。
- ・様々なコレクションがあるので、そういったコレクションが排除されないようなコンテンツにしてほしい。他で作られたものを活かす視点が大事。
- ・入り口はあっさりしていてよいが、関連する情報とつながっているほうがよい。
- ・この委員会では、ウェブサイトの設計図を構築していただく。地域で活用して意識を高めることが目的である。一元化する考えは持っていない。また、フォーマットをつくってカッチリしたものをつくりあげるイメージは持っていない。
- ・地域には、様々な災害に関する情報が残っているので、それらを発見して活用につなげるために、役立つ情報を整理したい。事例、活用例、データベースの紹介の3つのコンテンツは必要。
- ・自発的な取組を促す内容を検討してもらいたい。
- ・すべてを集約することはできない。具体例を示し、各地の取組事例のページにリンクしていけばよいと思っている。都道府県レベルと市町村レベルでひな形をもとにまとめてもらえることを期待している。
- ・活動をやってみようと刺激するための工夫が必要。
- ・身近なところで行われていることがわかると、きっかけになるかもしれない。博物館ではフェイス・トゥ・フェイスで人が出会う仕掛けを組み入れている。そういった仕組みを考えられるとよい。
- ・地域の中で、博物館など様々な情報や資源が集まっている場所がある。そういう取っ掛かりになるような場を紹介するとよいだろう。たぶん、都道府県ごとに博物館や歴史などを紹介

している施設はあるのでそれを提示できるよいかもわからない。

- ・取組んでいることを報告し、共有できるとよいかもわからない。その際、誰が許可するのかチェックできる体制を考えておく必要がある。
- ・活用方法を全面に出すのがよい。
- ・災害遺構の活用を促すことが目的とすれば、災害遺構等のリストを作るものではないはず。やりたいけれど、どこに相談すればよいかわからない。相談する先を紹介してはどうか。各都道府県に1つくらいはあるように思う。
- ・図録集のリストを提示すれば、やる気が出てくるのではないか。やろうかなと思う人に手を差し伸べるようにしたい。
- ・マップは有効に使った方がよい。災害の種類別などで情報をプロットできるとよいだろう。

#### 4. その他の事項に関する議論

- ・各地には防災の啓発拠点があるので、そこを介して紹介してもらってはどうか。歴史的な教材を啓発拠点に入れ込んでいけば、おのずと取り組みやすくなる。啓発拠点のリストがなければ、それは内閣府で集められるとよい。また、小中学校、高校へのインフォメーションは必要。
- ・災害を経験した人が意図的に残した、記録したものを取り扱うことになる。将来役立てて欲しいというメッセージがあることは伝える必要がある。思いや価値を受け継ぐことを示した方がよい。
- ・防災に絞り込んではいけないと思うが、「楽しい防災」というのも違和感がある。「活きた防災」「防災だけではない活動」「人間の生活や記録の豊かさ」をいうものを示してもらいたい。事例紹介するときに、今後活かすべきものの有り様を示してもらいたい。
- ・歴史探訪というくらいのイメージかもしれない。
- ・防災を目標にしない。地域をよくするための一つ的手段として防災がある。防災・災害を通じて、地域を学び、地域の魅力を発見し、地域創生につなげていくという説明があってもよいのでは。
- ・具体的な活用事例があると説得力がある。興味を持ってもらうためには、ピクニックのような楽しみながら参加できるほうがよい。防災をネタに活動してもらいたい。

以上